

岡山大学全体の経営改革のビジョン

2019～2021

岡山大学ビジョン2.0
岡山から世界に、新たな価値を創造し
続けるSDGs推進研究大学

2022～2027

岡山大学ビジョン3.0
ありたい未来を共に育み共に創る研究大学

～2050

長期ビジョン2050
地域と地球の未来を共創し、
世界の革新に寄与する研究大学

2019年度SDGs大学経営



- SDGsへの貢献を大学経営の中核に位置付ける
- 教育研究・産学共創を一体的改革
- マルチステークホルダー・エンゲージメントを強化
- 大学の特色と強みを際立たせた新たな事業モデルを展開し、「財源の多様化」・「自律的な大学経営」を実現

第4期に向けたイノベーションエコシステムを加速する大学経営の新機軸

■ 国立大学イノベーション創出環境強化事業 (2020～2021年度)
・リソースを収益に転換する意識改革
・イノベーション創出を起点とした民間資金の獲得

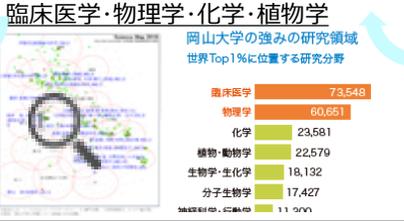
■ 国立大学経営改革促進事業 (2021年度)
イノベーション・エコシステム構築に向けた大学収入構造改革
～医療分野へのリソース集中による社会課題の解決～

収入構造改革(財源の多様化)

運営費交付金・授業料・病院収入・産学連携収入4区分の比率を変える



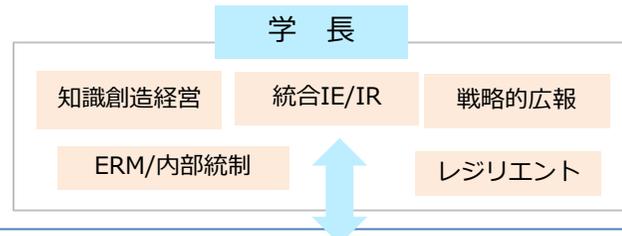
強み! (研究IR)



ハイブリッド型大学経営改革

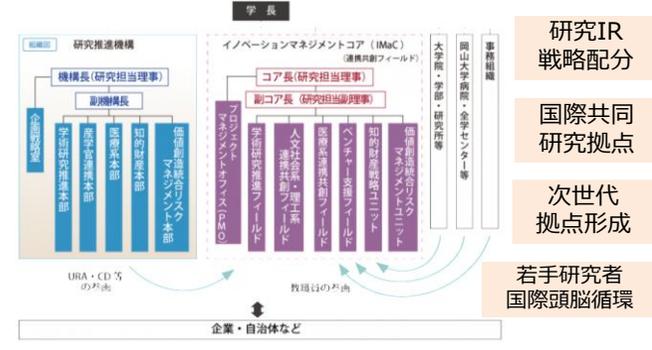
価値創造ナレッジマネジメントオフィス（仮称）の創設

学長直轄で、大学経営戦略・戦術を企画立案・実働・指揮調整するアジャイルな組織。新事業や不確実性が高く知識創造が必要な業務・事業が対象



2022年度 I M a C 発展・拡充

プロジェクトベースで、教員・事務職員・URA等がIMaCというフィールドに集い、プロジェクトマネジメントを行いつつ、「組織」対「組織」の共創活動を実施。Innovation Management Core



- 「強みは、“さらに強く”・“高く”」「特色を“より極める”」
- 知と資金の循環により研究地盤強靱化
- 研究マネジメント人材改革

◆経営分析に基づく戦略的収入構造改革

◆地域共創・地域変革をデザインする地方総合大学として社会インパクト



2022年3月岡山県吉備中央町
デジタル田園健康特区指定

◆アジャイル型オープンラボ「岡大DXコア」をモデルに共育共創の大学院改革へ



◆国際研究拠点形成の深化・発展

若手の挑戦的研究・国際頭脳循環を支援
強みに集中投資して研究環境を整備
若手・女性・外国籍等多様な人材の招聘

- RECTORプログラム
- 国際構造生物学拠点
- 研究教授等 制度
- 若手研究者支援PKG

「リウグウ」に大量の有機物が存在か

クライオ電顕
2023年度学内経費で購入

取組 1 : 知識創造経営システムの充実強化 「価値創造ナレッジマネジメントオフィス」の創設・運用

学長

組織イノベーションの加速化

「ウォーターフォール型組織」に「アジャイル型組織」を組み合わせ
組織の機動性を加速させる

※R4は準備室設置、R5にオフィス設置。R6～R7に本格運用

アジャイル型組織

IMaC*

連携・協働

* Innovation Management Core

価値創造ナレッジマネジメントオフィス (仮称)

大学経営の戦略・戦術を企画立案する実働する指揮調整 (参謀) 組織

室長：学長指名の役職員
専任：1人+a (新規)

知識創造経営
コア

暗黙知を形式知化
ISO30401:2018
ISO56002:2019対応

統合IE/IR
コア

意思決定支援から財務計
画・戦略計画の策定へ
戦略マップに基づく経営
分析、リスク分析、事業
影響分析等を統合

戦略的広報
コア

ブランドマーケティング、
リスクコミュニケーション
の深化
R3イノベーション創出環境
強化事業・国立大学経営改革
促進事業深化

ERM/内部統制
コア

ERMの全学展開/ノウハウの
提供
R3イノベーション創出環境
強化事業・国立大学経営改革
促進事業深化

【新規】

レジリエント
(縮災) コア

防災教育訓練の社会還元
R3国立大学経営改革促進
事業深化

<IMaC方式>

各運営組織や部局等に
所属・関与する教員・
職員がエフォートを
切って参画

ウォーターフォール
型組織

教育推進機構

研究推進機構

有機的連携

安全衛生推進機構

その他運営組織・
事務組織

- ウォーターフォール型は、プロダクトの要件や仕様が明確で変更がない場合は複雑性が低く、きっちりと計画し予定通りに開発を進めていくのに適す。
- アジャイル型は、世の中の状況が変化し、プロダクトの要求が変わるといった複雑性が高い場合、プロセスを反復しながら徐々に成果を積み上げ、失敗を学びに変えて、都度見直しながら開発を進めるのに適す。
- 本学は、複雑性の低い案件はウォーターフォール型で、複雑性の高い案件はアジャイル型で、学内の叡智を集め課題を解決するIMaC方式に移行する。

- 高度マネジメント人材 (URA・広報・リスクマネージャー・IR) の整備
- 教員 (研究者) ・事務職員からの高度マネジメント人材へ登用可能な人事・給与制度改革
- 次世代を担う、若手教員 (研究者) ・事務職員・技術職員が「未来構想」・「経営」に参画

○ 研修受講者のうち業務執行上、役立つと回答した者の割合

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
30%	50%	60%	70%

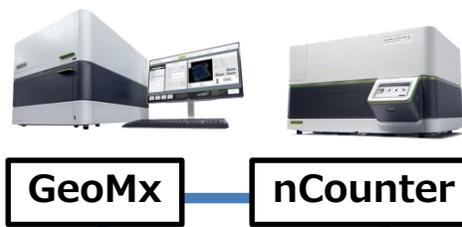
取組2：医療系分野における外部資金獲得策の拡充

- ・ 超高解像度生体試料解析医療機器の利活用促進
- ・ 唯一無二の解析システムによる研究の強み

ゲノム中核拠点を中心に、研究内容（プロジェクト）にあわせ既存組織にとらわれず、PIのビジョンのもと、本学研究者と共同研究機関（医療機関・企業）の多職種スペシャリストが有機的に連携

* がん免疫療法のカギとなる腫瘍微小環境の解明や、がんのクローン多様性、治療抵抗性の解明、ゲノム編集や遺伝子導入における1細胞レベルの測定などリバーストランスレーショナルリサーチの推進に大きく貢献。

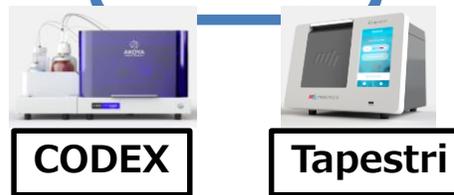
スピード感をもった**アジャイル型開発**による未来医療の推進



GeoMx

nCounter

OUGeoシステム（仮）
（国内、唯一無二の解析システム）

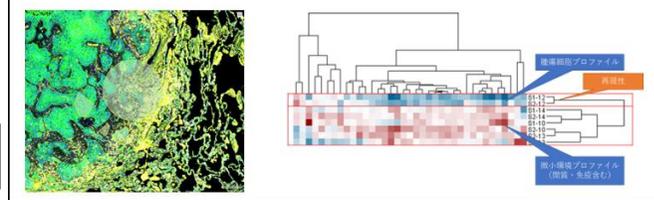


CODEX

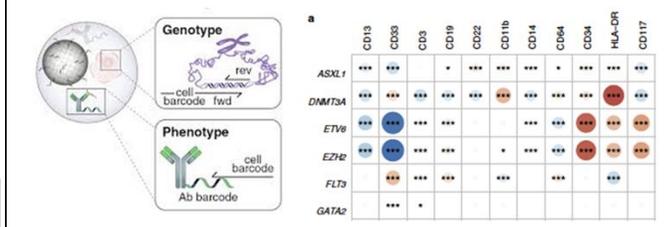
Tapestri

「AMEDゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム」（年間約8,000万円）に令和3・4年度連続採択！重点配分された先端解析設備とそれに基づく理論・解析技術、独自性の仮説が高く評価。（唯一無二のシステムと研究力が外部資金獲得へ好影響！）

例1) 極微小環境における免疫多様性解析



例2) 1細胞マルチオミックス解析



デジタル田園都市
国家構想の推進

岡山医療センター

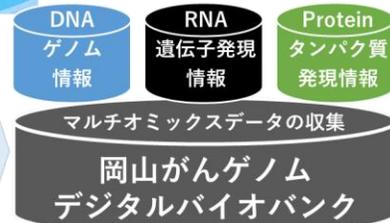
川崎医科大学病院

倉敷中央病院

岡山赤十字病院

岡山大学病院
がんゲノム医療中核拠点病院
臨床研究中核病院

岡山県内の全てのがんゲノム症例が集まる
↓
岡山県がん患者ゲノムコホート



医療DX令和ビジョン2030への貢献
次世代型がんマルチオミックス医療の開発
デジタルバイオバンクの構築と利活用

強化のポイント

- ① 専従の技術職員を配置
⇒ 安定稼働+データ処理能力の大幅な増加
- ② プロジェクトマネージャーを配置
⇒ SOP管理+研究効率・データの品質の向上
- ③ シングルセルライブラリー作成機器⇒最先端の解析制度の実現



① 外部資金獲得額の増加

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
50,000	65,000	80,000	100,000

② 受託解析業務の増加

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
10,000	15,000	20,000	25,000

取組3：国際研究拠点形成（RECTOR）プログラムの進化・加速化を核とした「研究力PowerUp戦略」

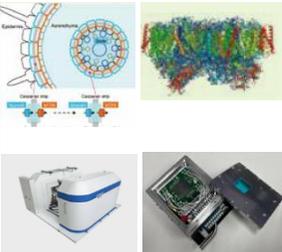
取組4：Mission・Projectベースオープンラボの構築

■大学改革促進のための国際研究拠点形成プログラム（RECTOR）の進化・発展を核とした「研究力PowerUp戦略」

－海外の優れた研究者を招へいし、国際共同研究を促進のなかで若手TOP研究者育成・国際頭脳循環－

第Ⅰ期：2019～量子コヒーレンス・光合成・分子イメージング

主なアウトカム		
項目	2019-2021実績	対2016-2018増加数
論文数	184報	72報 (64%増)
国際共著論文	117報	54報 (86%増)
TOP10%論文数	36報	22報 (157%増)
Q1ジャーナル論文数	150報	68報 (83%増)
外部資金獲得額	635,517千円	196,914千円 (45%増)



第Ⅱ期：2020後半～

新進気鋭の若手研究者の活躍



「宇宙物理」
国際共同研究プロジェクト「CMB-INFLATE」に参画

「トランスクリプトーム」
病態解明・新規治療開発のための空間解析を含むマルチオミクスデータベース構築
AMED大型資金獲得
(2021・2022年度)
創発研究獲得

PowerUp!

研究の強みに対し
リソース集中

「クライオ電顕」
(2023年度学内経費で導入)

先端設備を核に
他分野の研究者が集結

強みの分野を核に組織の枠組みを超え、
若手研究者がアジャイルに研究参画
→破壊的かつ挑戦的な研究を推進
(異分野融合研究)

RECTORプログラム
(5拠点)

追加 追加

若手研究者の
可能性を伸ばす

I Ma Cの
マネジメント

国際構造生物学拠点形成

2021年版「世界で最も影響力のある科学者に選出」

沈建仁教授 馬建鋒教授 山地直樹准教授
※投資額（144,067千円）に対し、**+52,847千円**
(イノベーションエコシステムの“芽”)

①Rectorプログラム拠点における直近5カ年のTOP 10%論文数 (本) ②Rectorプログラム拠点関連の外部資金獲得額 (千円)

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
69	76	79	86

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
341,000	349,000	381,000	396,000

Mission・Projectベースオープンラボの構築

DXをキーワードに学内外の多様な人材が融合する場

Mission・Projectベース
アジャイル型オープンラボ



セキュアDX人材育成
DX技術力の底上げ

多様な実践フィールド
共育共創・SDGs
アジャイル開発

共同研究・PoC検証
アイデアソン・ハッカソン
逆インターンシップ



一芸に秀でた者・出る杭を
引き伸ばす

小中高大連携
若手DX人材育成
活かした情報教育

起業家精神育成
Campus Venture GP
学生ベンチャー

学部 → 修士 → 博士
WAAPプログラム
攻撃型セキュリティ
White Hacker



【Special UNIT】



自立・躍動する
人材育成エコシステム

研究者、職員、学生が組織の垣根を越え、
産・官・金、小中校生も岡山大学DXを舞台
に個々の知技を磨き上げる。(異分野・異文化
・異社会連携)

① 寄付講座・受講料収入 (千円)

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
3,000	5,000	5,000	8,000

② DX関連共同研究費収入 (千円)

令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
2,000	5,000	5,000	7,000

- ・ 社会に必要とされ、感謝されることが、本学のファンを増やし、教職員やステークホルダーの愛校心を育む。
- ・ 大学内外の Well-being の向上。

組織風土を改革し、組織の仕事のやり方、人の仕事のやり方を変える。
 (既成概念の打破 → 大学経営の新機軸)

「価値創造ナレッジマネジメントオフィス」 × 「IMaC」 × 「DX」による

司令塔機能

- 「組織」対「組織」の共創を促進。(産学官金民)
- 「計画性、正確性、確実性」を重視するウォーターフォール型手法に加え、「スピード感、改善性、柔軟性」を重視するアジャイル型手法の積極的導入

ERM構築

- 本学で発生するあらゆるリスク(目的に対する不確かさ)を把握・制御・予防。
- 本学の掲げる目標や目的の達成率を上げ、大学の価値向上に寄与。

2022~2027岡山大学ビジョン3.0
 ありたい未来を共に育み共に創る研究大学

手法

◆ 業務プロセスが明らかな案件は、従来型の
ウォーターフォール型手法

◆ 新たに取り組むものや挑戦的な事業、トライ&エラーで常に改善するような案件は、
多種多様な知と技で挑むアジャイル型手法

◆ ハイブリッド方式により、
組織改革を加速

環境整備

- ◆ エビデンスに基づく**資源再配分**
- ◆ 強みを『さらに強く・高く』
- ◆ 特色を『より極める』
- ◆ 稼いだ資金を投資し、**研究地盤を強固に、厚く**
- ◆ **研究マネジメント人材改革**
 (研究者・事務職員・技術職員⇔URA)

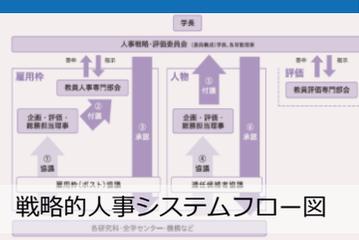
IR/IE機能の強化



大学の強みを伸ばす予算の戦略的配分



経営的・戦略的視点に立った 新人事システム



【第4期中期目標計画(抜粋)】

- ◆ 社会課題の解決及び社会改革の実現に寄与する科学的理論及び基礎的知見を創出するための強みである研究分野を中心とした、国際研究拠点及び次世代研究拠点を形成。
- ◆ 人材・知・資金の好循環によるIP(イノベーション)創出機能を構築するために、学内におけるIP創出機能の集約化と強化による戦略的活動を実施する組織を構築・運営。
- ◆ 研究設備・機器の全学的マネジメントによる戦略的な整備・共用。70%以上の枠を超えた保有資産の共同利用の推進。
- ◆ 大学経営の視点から統一的マネジメント(ERM)に取り組み、本学で発生するあらゆるリスクを統一的・包括的・戦略的に把握・評価・最適化し、本学の価値の最大化を図る。

学内機器の共用化を進め無駄のない研究環境を構築



学内機器の共用化を進め無駄のない研究環境を構築

物